

島内瑞枝さん（物部）

民謡サークルで活動している島内さん。あまり踊られなくなっていた「神国おどり」を再び盛んにしようと頑張っています。



子どもからお年寄りまで、市長さんをはじめとして、男性の方もいっしょに踊ってくださいね。

たくさんの人とふれあいながら踊ることで、健康になればいいですね、仲間もできるし、南国市には市発足と同時期にできた「南国おどり」があったのですが、これまでもたれ

ていました。これではいけないとみんなが話し合い、教材用ビデオを作って再び盛んにしようと考えました。歌詞に市内のいろいろな地名が出てくるので親しみが持てます。全国にも誇れるような踊りにしたいですね。



澤村憲二さん  
（大塚）

この春、高校を卒業し社会人となった澤村さん。高知カシオの新人社員として、新しい生活がスタートしました。

残業も多いし、難しいことばかりで、最初はどうしようかと思いましたが、でも最近では体も慣れて、楽しく働けるようになりました。

休みの日は友だちとドライブです。このあいだ車を買ったばかりなんです。次はバイクの免許も取りたいと思っています。周りのこと、自分のこと、いろんなことを考え、高知で就職しようと思えました。これからここでの生活を頑張ります。

戦後の解放運動・教育・行政が  
どのように行われたか ⑦

同和教育への出発③

一九五八（昭和三十三年）、福祉教員や一部の有志たちが高知県教職員組合の協力を得て、自主的な研究組織として「高知県同和教育研究協議会（県同教）」をつくりました。

そして、組織の確立のために市町村や学校に参加を呼びかけました。

この前後から、高知県の教育界は教職員に対する勤務評定の実施をめぐる大混乱が起ころっていました。高知県教職員組合は、教職員に対する勤務評定を、学校内に差別と差別の教育を持ちこむ根源になるととらえ、これを阻止しようとする強力な反対闘争を行いました。また、「解放団体高知県連合会（現在の部落解放同盟高知県連合会）」もこの運動を強力に支持し、共同体制を組み、先頭に立って闘いました。

こうした反対にもかかわらず、高知県議会は百数十人の警察官を導入して勤務評定実施の条例を決定しました。こ

このようにあわただしい教育界の状況ではありましたが、県同教は翌年の第十一回全国同和教育研究大会（全国同研大会）を高知県で開催することを引き受けました。

しかし、この時点の県同教は、全県的な組織ではなく、福祉教員を中心に、限られた有志による組織でしたが、一九五九（昭和三十三年）の第十一回全国同研・高知県大会を開催し、成功させました。これをきっかけに県同教は全県的組織としての基礎が確立しました。

この大会は、全国同研大会十回の模索時代から今日の大会への方向づけとなる、画期的

同和教育シリーズ

な提案が本県から出されました。

その一つに「積みあげ方式」があります。それまでの大会では、個人の自由な研究や実践の発表でしたが、本県の提案した方式は、あらかじめ設定された「共通テーマ」にそった研究や実践を深め、それを各府県で集約し、代表が発表する方法です。

二つめに、今日でも全国同研大会のメインスコーガンとして取り上げられている「差別の現実」に深く学び……」のもとなった「同和教育白書づくり」の提案です。これは、子どもたちをとりまく差別の現実や教育条件などを把握するため、全同教の組織で調査・分析をせよ……という提案でしたが、これも全会一致で採択されました。

本県からのこの二つの提案は、その後も引き継がれ、取り組まれており、全国的にも大きな成果をあげ、現在に至っています。